

批判・反骨・ユーモア

～新聞・雑誌でめぐる風刺画の世界～



期間：2017年11月1日(水)～11月30日(木) 10:00～17:00

【入場無料】 ※土・日、祝日は閉室。ただし、一橋祭期間中(24日(金)・25日(土)・26日(日))は9:30～17:00開室。

講演会

「新聞・雑誌漫画にみる批判・反骨・ユーモア
～近現代日本の諷刺画を手掛かりに～」

11月17日(金) 14:30～16:00

入場無料、事前申込み不要

19世紀から現代にかけての日本の新聞・雑誌漫画を概観することで、新聞・雑誌漫画が持つ諷刺性がどのように変わってきたのか、将来の新聞諷刺画の目指す方向は何かを語る。新聞・雑誌諷刺画の内容の諷刺性を個々の作品に即して語るだけでなく、掲載媒体の特徴、読者の置かれてきた「環境」も無視できないため、それらについて語ることも求められよう。また、欧米の新聞・雑誌漫画の影響を受けてきたことも重要である。このように、多様な要素を考慮すべき話題であるが、送り手、メディア、内容、受け手と大まかに分けて、代表的な作品を紹介しつつ近現代日本の諷刺画の様相を可能な限り明らかにしたい。

【講師】

東京情報大学教授

茨木 正治 (いばらぎ まさはる) 氏

【会場案内】

※いずれも西キャンパス時計台棟1階

・展示：一橋大学附属図書館・展示室

・講演会：一橋大学附属図書館・会議室

【講師経歴】

横浜生まれ。学習院大学大学院政治学研究科博士後期課程単位取得。博士(政治学 学習院大学)、北陸大学法学部を経て現在は東京情報大学教授。専門分野は政治とマス・メディア、新聞漫画研究。

【著作紹介】

- 『「政治漫画」の政治分析』(芦書房, 1997年)
- 『メディアのなかのマンガ』(臨川書店, 2007年)
- ・編著『マンガジャンル・スタディーズ』(臨川書店, 2013年)

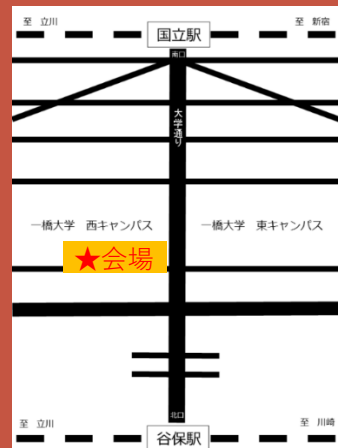
他。



【交通案内】

・JR中央線
「国立」駅下車
南口 徒歩約10分

・JR南武線
「谷保」駅下車
北口 徒歩約20分、
または国立駅行バス
「一橋大学」下車



一橋大学附属図書館
HITOTSUBASHI UNIVERSITY LIBRARY

東京都国立市中2丁目1
電話：042-580-8240

<http://www.lib.hit-u.ac.jp/pr/tenji/kikaku/2017/>

展 示 紹 介

特定の人物や、政治、社会情勢等に対する批判を、皮肉やユーモアで表現する**風刺画**。19世紀のフランスでは、印刷技術の発達とともに作品の大量複製が可能となり、さらに新聞や雑誌と結びつくようになることで人気が高まりました。フランスでの成功は、その後イギリスやドイツなどの周辺国に同様の紙誌の創刊を促し、その動きはやがて日本にまで波及しました。

本展では、当館所蔵の風刺新聞・雑誌を取り上げ、「**検閲**」、「**生活**」、「**戦争**」、「**日本**」の4つのテーマからさまざまな風刺画をご紹介します。展示資料からは、批判や反発をユーモアへと昇華させる画家たちの手腕、そして、反骨心を読み解くことができます。また、比較的後年の資料からは、不穏な国際情勢の中、風刺の矛先が他国に向かう傾向を見てとることができます。

本展を通じて、風刺画が描かれた当時の画家や読者が同時代をどのように捉えていたのかを知るための手がかりを得ることができるでしょう。

時代を映し出す「鏡」としての風刺画の世界にご案内いたします。

